

地域交通網形成計画の策定を急げ



宇津木治宣



町長

タクシー券、BRT(※1)に合わせ作成

質問 地域交通網の確保は、まちの活性化や福祉、子育てなど、まちづくりの基本だ。県市町が連携して取り組む「地域交通網形成計画」の策定を急ぐべきでは。

答弁 町長 この計画は、基本的に3〜5年の間に実現が見込まれる施策をまちづくりや観光振興などのさまざまな分野との連携を整理し策定するものだ。

質問 タクシー券の実証実験や、県が調査するバス高速輸送システムの計画に合わせ作成したい。

質問 タクシー券補助事業の昨年度実績は。

答弁 町長 補助券は253人に5616枚、280万円分交付したが、利用されたのは、521枚で26万円だった。

質問 この事業は、今年度も継続され723万円が計上されている。迎車料金の地域格差、タクシー待機所の設置、利用枚数など課題も多いが。



利便性を高め、利用されるたまりんに

答弁 町長 今年度から、1人1乗車につき2枚まで使えるようにした。タクシー待機所の増設については今後も事業者に働きかけていく。

質問 たまりん運行の改善策は。

答弁 町長 広報たまむら4月号で再編に関する意見募集を行っている。プロジェクト会議にて町の考え方を検討・整理していき、路線バスや周辺自治体のバスとの接続調整を行い、運行ダイヤに反映していく。

待機児童解消策は万全か

質問 小規模保育所設置事業者については、応募申請がなかったようだが、今後の対応策は。

答弁 町長 子ども子育て会議を開き、南幼稚園の活用も含め検討していく。

質問 学校施設内放課後児童クラブの準備は万全か。

答弁 町長 玉小の余裕教室は、上下1、2階の教室で、使用できるのは放課後のみであるため、運営予定者から「教室を終日使えない」「各階に支援員を置く必要がある」などの理由で運営が難しいと回答を受けた。今後は、新たな運営主体の公募や西児童館の放課後児童クラブの移転などを検討委員会に諮問し、対応する。

※1 BRT(バス・レッド・トランジット)とは、バス高速輸送システムの略。バス専用レーンや連節バスなどを組み合わせて運行する新交通システム。定時・大量輸送等が可能となる。

増大するインフラ整備への対応は



柳沢浩



町長

個別施設計画等を策定し、実施する

質問 財政が豊かな時代に整備されてきたインフラや公共施設などが一斉に更新時期を迎えるが、どう対応するか。

答弁 町長 人口減少や、少子高齢化による扶助費などの義務的経費の増加が予想され、これまでと同水準の投資は困難と考えている。

29年3月に策定した「玉村町公共施設等総合管理計画」では、公共建築物及びインフラ施設の全てを改修や更新した場合、今



インフラ施設等の更新が迫る

後40年間でかかる費用が年平均で25億8000万円と試算されたが、同計画では、投資的経費を過去10年の平均額の6割に抑えた年13億4000万円に目標を設定し、その範囲内で改修や更新を行うこととした。

8%と高率を示しており、私も危惧している。加えて、本町の財政調整基金の減少は著しく、町の将来を見据えた場合、収支の均衡を持続的に保つことが困難になっていくことから、今後もより一層財政の健全化を推し進めなければならぬとの認識のもとで、30年度予算を編成した。

公共建築物については、集約や複合化等を検討し、行政サービスに配慮しつつ40年間で総延床面積の15%を目標に削減することとし、そのための個別施設計画を策定する。

財政健全化はできるのか

質問 インフラ施設については、長寿命化計画を策定することで、更新費用の縮減や平準化を図る。

答弁 町長 最大の課題、難題である財政の健全化について問う。経常収支比率が97・8%と極めて高い水準にある現状は憂慮すべき事態ではないか。

こんな質問もしています

- 町外での耕作の課題について
- 早期退職を懸念する